

## 中学校における道徳教育の指導計画に関する研究

苫田郡鏡野町立鏡野中学校 教諭

山本卓史

### 研究の概要

学校教育において、心豊かな生徒の育成を図るには、教育活動全体で行う道徳教育及び道徳の時間を充実させる必要がある。そのためには、道徳教育にかかわる指導計画の評価・改善を行い、創意工夫を凝らした特色ある指導計画を作成することが重要である。そこで、中学校における道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画を作成する際の課題と改善の基本的な考え方を明らかにした上で、それぞれの工夫改善を提案する。

キーワード 中学校，道徳，全体計画，年間指導計画，重点的指導，資料選定

### 主題設定の理由

変化の激しく厳しい社会の予想される21世紀を生きていく生徒たちにとって、必要とされる「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を、道徳の時間をはじめとする学校教育の全体において育てることが求められている。

しかし、中学校教師の中で道徳教育の研究経験を持つ者は、決して多くはない。国立教育研究所が平成9年にまとめた「道徳教育カリキュラムの改善に関する調査研究 - 小学校・中学校調査報告書 -」によれば、中学校教師の約74%の者が研究経験を持っていないとされている。また、道徳教育に関心がないとする者も約16%いるとされている。

中学校教師である自身も、これまでに道徳教育に関する研究経験を有していないし、関心が高かったとも言いきにくい。しかし、最近の2年間にわたり生徒指導主事として、全校の様々な生徒と接するうちに、一人一人の生徒が、自ら豊かな心を育てていこうとすることがいかに大切であるかということ強く感じるようになった。そして、道徳教育の全体計画（以下「全体計画」という。）や道徳の時間の年間指導計画（以下「年間指導計画」という。）の重要性に改めて気付いた。生徒一人一人に豊かな心を育てるためには、道徳の時間をはじめとする学校教育の全体において道徳教育の推進を図らねばならないからである。

本研究は、道徳教育における基盤となる全体計画と年間指導計画を作成、運用する上での問題点を一つ一つ修正して、改善を積み重ねていこうとするものである。そうした少しずつの積み重ねが、心豊かな生徒を大きく育てる道徳教育の展開につながると考え、この主題を設定した。

### 研究の目的

心豊かな生徒を大きく育てるために、中学校における道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画作成を通して、その課題を明らかにした上で、工夫改善を提案する。

### 研究の内容

#### 1 全体計画の課題と工夫改善

(1) 全教職員の共通理解と家庭・地域の願いについて  
道徳教育の研究会などにおいて、道徳教育にかかわる諸計画の在り方がしばしば話題になっている。そこでは、学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることや家庭・地域との連携を図る必要性などから、全体計画が必要になるが、それを作成しただけで終わりがちであることが課題とされている。

その大きな原因の一つは、全体計画が道徳系の教師のみで検討、作成されがちになることであると考えられる。例えば、道徳教育の重点目標（以下「重点目標」という。）の設定にしても、道徳系の教師により、学校教育目標と中学校学習指導要領に示された道徳の目標のみに基づいて設定されることが比較的多い。そのために、他の教師との意識の遊離が起こりやすいのである。重点目標などの設定に関して、全教職員の共通理解を得ていくことが改善につながると考える。

また、家庭・地域との連携を図って生徒の道徳性を高めることを考えたとき、家庭・地域の人々の願いを確かに把握し、それを考慮することが必要になる。生徒の実態を踏まえた上で、これらの人々の願いも考慮した重点目標を設定することで、全体計画の重要性は一層高まり、様々な教育活動における道

徳教育に結び付きやすくなるであろう。

そこで、保護者、地域住民及び本校教職員(255人)に対して徳教育における23の内容項目に関する生徒像を示して、「あなたが望む中学生の生徒像」として23項目のうち5項目を選ぶアンケートを実施した。ここでは、紙幅の都合により上位8項目のみを示す(図1)。

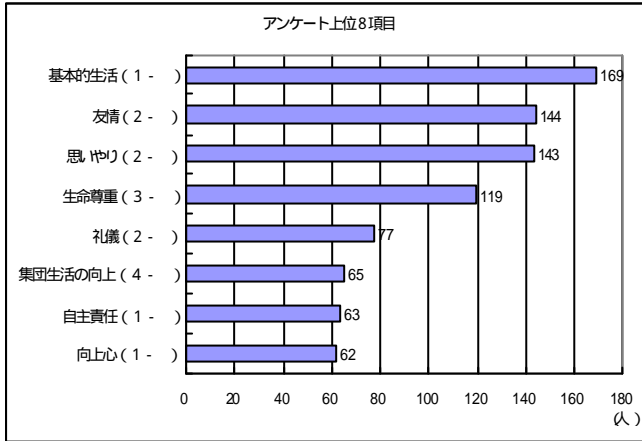


図1 保護者、地域住民及び本校教職員の願い

この結果を、生徒の実態や学校教育目標などととも重点目標案を設定する際の重要な資料にした。

なお、全教職員による全体計画の検討については時間の制約のために行えていない。

## (2) 様式について

全体計画の様式にも課題がある。徳の時間と他の教育活動の有機的な関連を明らかな形で示すためには、A4またはB4用紙一枚にそのすべてを書き表すことが望ましい。しかし中学校学習指導要領解説-徳編-(以下「解説」という。)に示されている「全体計画の内容」を一枚にすべて記述しようとすれば、かなり複雑になり、かえって理解しにくいものになりやすい。

今までの全体計画では、学校の教育活動のすべてにわたって、徳教育の指導の方針を文章にして示していたが、それがかえって徳教育の全体構想を理解しにくいものにしていただけとされる。そこで、全体計画に示す内容の簡素化を図り、徳の時間と他の全教育活動との有機的な関連が一目で分かるように一層の図式化を進めた。そして文章で書き表していた徳教育の指導方針は別紙にまとめることにした。2枚にわたって示すことにはなるが、全体計画の概要を一目見て分かるものにすることが、教師集団全体の徳教育への意識や意欲を高めることに

つながると考えられる。

また、今まではほとんど示されていなかった「年間指導計画」「校長をはじめとする全教職員による徳教育」「心のノートの活用」といったキーワードを明示することでも、徳教育全体の構想のつかみやすさを図った。

さらに、徳教育の評価の観点を示し、評価の記入欄を設け、次年度以降での一層の改善を図れるようにした(図2)。

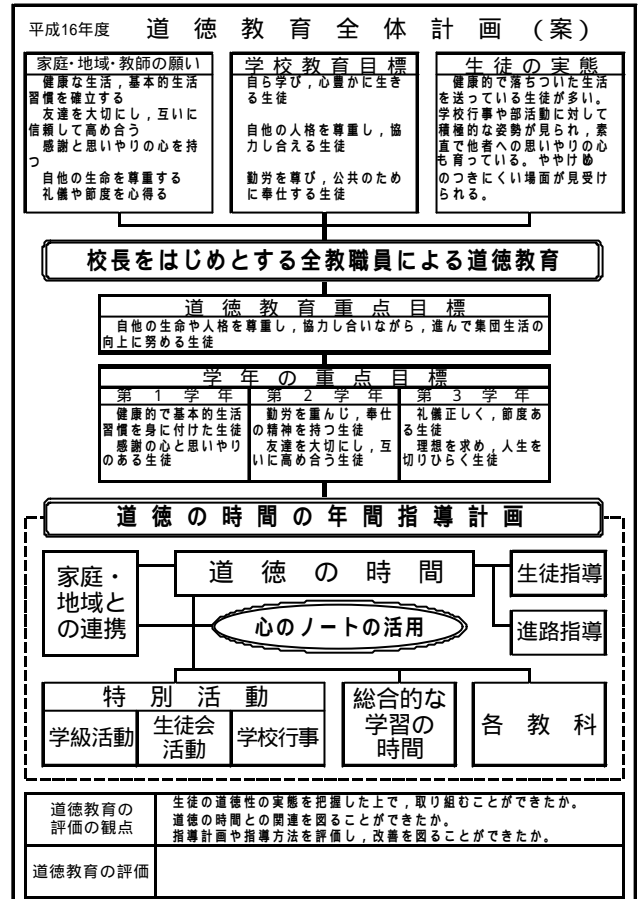


図2 徳教育の全体計画案の一部

## 2 年間指導計画の課題と工夫改善

### (1) 授業構想のひな形

年間指導計画を簡略化した、図3のような主題配列表だけが作成され、「年間指導計画」として示されていることが多い。この場合、担任教師にとって年間指導計画は、次時の主題などを確認することにしか使えない。

解説によれば、年間指導計画には指導の基本方針と年間にわたる指導の概要を示すことが望まるとされている。さらに指導の概要に具備すべき事項として「主題名」などとともに「主題構成の理由」や

平成16年度 道徳の時間 主題配列表 (案) 2年生				資料 A			資料 B				
回	月	主な行事等	主題名	項目	重点	資料名	型	指導の工夫等	資料名	型	指導の工夫等
12	9	かがみのフェスタ	郷土愛	4-(8)	集団生活の向上 の 向 上 ・ 友 情	ベストロッチの3H理論	共感	国際交流員とTT	アップルロード作戦	共感	地域清掃活動
13	9	体育祭	集団生活の向上	4-(1)		先輩になるということ	葛藤	体育祭のビデオ	明かりの下の燭台	範例	大松監督の資料
14	9	生徒会役員選挙	法やきまり	4-(2)		修学旅行の思い出	葛藤	モラルシナマ	一つのエピソード	共感	六法全書
15	10	都新人総体	友情の尊さ	2-(3)		雨の日の届け物	範例	ビデオ資料	友達を信じられないのか	葛藤	アンケート
16	10	美作地区予選会	人間愛	2-(2)		杜子春の物語	感動	演劇ビデオ	軽し優しさ	共感	著者の本
17	10	中間テスト	集団生活の向上	4-(1)		うるわしき伝統	葛藤	先輩後輩アンケート	いつも一緒に	葛藤	モラルシナマ
18	10		広い心	2-(5)		和太鼓への思い	共感	和太鼓の演奏	みんながってみんないい	共感	金子みすゞの詩
19	11	学級弁論	弱さの克服	3-(3)		最後の一葉	共感	美術の先生とTT	ネパールのビール	範例	ネパールの紹介
20	11		家族愛	4-(6)		母の涙	感動	赤ちゃん人形	ごめんねおはあちゃん	葛藤	家族への手紙
21	11	文化祭	働く喜び	4-(5)		たんぼぼ作業所	範例	職場体験ビデオ	山と生きるおじいさん	共感	富村の紹介ビデオ
22	11	人権参観日	友情の大切さ	2-(3)		吾一と京造	共感	アンケート	星置の溝	葛藤	アンケート
23	12	期末テスト	理想の実現	1-(4)		クリームパン	範例	教師とTT	動かない爪を求めて	感動	技家の先生とTT
24	12		よりよき仲間	4-(7)		歌は心をつなぐ	共感	CDの歌	校門を握る子	範例	校長とのTT
25	12	個別懇談	愛国心	4-(9)		国	共感	王貞治の本	木のいのち、木のこころ	共感	事前の調べ学習

ただし、紙幅の都合により、日付、出典などは省略している。

図3 道徳の時間の主題配列表案の一部(第2学年第2学期)

「展開の概要及び指導の方法」が挙げられている。これらが道徳の時間の授業構想のひな形となる。各教科担任でもある学級担任にとって道徳の時間の準備に割ける時間が限られていることを考えれば、年間指導計画の作成がいくらか煩雑になったとしてもこれらを明示することが年間指導計画の積極的な活用につながり、ひいては道徳の時間の充実につながると考えられる。後述する工夫改善も取り入れた年間指導計画例(1単位時間分)が図4である。これを35週分まとめて冊子として年間指導計画を作成した。

(2) 2種類の資料の用意

年間指導計画には、1単位時間につき一つの資料が示されるのが普通である。しかし、その資料が学級の生徒の実態に合わないこともある。例えば、一つの内容項目の中に複数の道徳的価値が含まれているものがある。1-(1)であれば、「望ましい生活習慣」「心身の健康」「節度・節制」などの道徳的価値がまとめられている。各学級の生徒の実態によって、どの価値に焦点を当てるのが望ましいかが分かれる場合が考えられるであろう。また資料に描かれた内容についても、ある学級では扱いにくいという場合が予想される。そのため、大きなねらいは共通であるが、内容の異なる資料も用意した。

ここで留意しなければならなかったのは、著作権である。本校で採択した副読本以外の副読本から資料の複製を行うと、著作権の侵害になると考えられる。そのため、各資料の掲載された原本を用意するようにした。以前は、各種の副読本から望ましい資料を複製して使用していた例もあったようではあるが、今後は十分に気を付けなければならない。またインターネットなどから資料を得る場合にも著作権や肖像権には留意した。

(3) 全体計画との関連性を高める工夫

道徳の時間以外の教育活動でなされる道徳教育だけでは、生徒の道徳的価値の自覚が断片的で底の浅いものになりがちであり、また内容的にも欠落する部分が生じる。この欠落した部分を補充したり、様々な道徳的価値をより深く掘り下げて考えたり、統合したりするのが、道徳の時間である。そのため全体計画に示された重点目標や他の教育活動との有機的な関連などが年間指導計画に反映されるとともに、道徳教育についての教師の認識を深める必要が

第2学年 道徳年間指導計画(案) 10月3週 (第17回)			
主題名	集団生活の向上	内容項目	4-(1) 重点項目
資料名	うるわしき伝統	時間	1 出典
な	集団の中で、生徒同士が互いに規律を守り、協力し合って、集団生活の向上を目指し、自らの役割と責任を果たそうとする心構えを養う。		道徳性発達研究会
ら	中学校の集団生活で、自分の態度や行動が分かって、役割や責任を果たすことが出来ない生徒や一人が協力して集団を高めようとする姿が見えないのが現状である。2年生が中心となり行事等を運営する機会が多いため、その体験の意義について考えを深めるには最適な時期である。		各 評 価
心	P82~P86(終末で扱う)		
主な発問など			
導入	アンケートの結果を発表する。 *あなたにとって望ましい先輩とは?		指導上の留意点
展開	賢一(先輩)、行雄(後輩)の立場に別れ、討論をしよう。 もしあなたが和也ならどうしますか。		・アンケート結果を模造紙に書いてはる。 ・クラスを中央で二分し、席を向かい合わせにして、それぞれの言い分を飯の立場で討論する。
終末	あなたはこれから部活動などでどう「心のノート」を活用していうところに気を付けようと思いますか。		自分の考えをまとめ、発表する。
<振替計画> 賢一(2年)の言い分 行雄(1年)の言い分 ・一年の時は苦勞して勉強することが大切です。 ・・・みんなと仲良く部活がしたい。 ・厳しさが伝統である。 ・・・使ったところは、みんなで掃除をするべきだ。 <具体的な指導方法の工夫や特徴> *事前にアンケートをとり、資料を準備する。 *モラルシナマ資料をディベート的に扱う。			
他の教育活動			
学校行事	文化祭(人間関係を大切にするとともに、励まし合うという協力関係を作り上げていくことが大切である)		
他教科の関連	文化祭の練習(自己中心の態度に留意する)		
特別活動	文化祭(友達と協力して課題を解決することに留意する)		
総合的な学習	文化祭の運営(自分の役割、責任を自覚する)		
生徒会活動	人権参観日(集団の中でお互い仲間はずれしないよう注意する)		
家庭地域連携	かがみの健康マラソン(各部で参加し、まとめて行動する)		
その他	<感想等>		
総合評価			

図4 年間指導計画例

生じる。

そこで、図4のように、年間指導計画の様式において、その主題が重点目標にかかわるものであることを示したり、各教科、他の領域などに関連することを示したりすることで、全体計画との関連性を高めることを図った。また学期ごとや年度末において、道徳教育の評価を行うことで、全体計画の改善につながるようにした。

(4) 主題の配列と重点的指導の工夫

先行研究をはじめ、中学校道徳の時間に用いられる副読本6種、岡山県内外の36校の年間指導計画について調べ、道徳の時間の年間指導計画改善の具体的な方策について考察していく。

ねらいの設定と配列

ねらい、つまり内容項目の配列には、決定的、必然的な系統性や順序性は認められなかった。つまり教科に比べて、学年内での系統性を重視する必要は少ないと考えられる。しかし、23項目をただ形式的、機械的に配列すればいいというわけではない。生徒の実態、心の成長、興味・関心などを考慮する必要はある。例えば、中学生の事故や自殺の増える夏休み前には、「3 - (2)生命尊重」を扱いたいと考えた。また他の教育活動、特に学校行事などとの関連を図る年間指導計画が多く見られた。例えば、入学や進級により新学級となる4月には、「1 - (1)基本的生活習慣」が多く計画されている。

資料の選定と配列

資料については、副読本に掲載されている読み物資料が中心となっている年間指導計画が多かった。さらに、副読本の配列のとおりで作成されているものも多くあり、道徳の時間がマンネリ化しかねないことがうかがえる。

実際にマンネリ化を起していることを示す調査がある。文部省の道徳教育推進指導資料「中学校心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」に、金井肇ほかの平成7年に行った「道徳授業についてのアンケート調査」の一部が掲載されている。それによれば、生徒たちが「道徳の授業を楽しめないと感じる理由」の上位になった二つの項目は、「いつも同じような授業だから」「資料や話がつまらないから」であった<sup>1)</sup>。

この調査から、ねらいに合った資料を選択、配列する際に十分な配慮が必要であることが分かる。例えば、ある感動的な読み物資料があるとすると

時間だけを見れば、適切な資料である。しかし、前週、前々週から感動的な読み物資料が続いていたのでは、マンネリ化を起こしてしまいかねない。共感的な内容を持つ資料、葛藤的な内容を持つ資料という内容面や視聴覚資料などという形式面の配列も考慮したいと考えて年間指導計画の作成に当たった。図3の主題配列表には、配列したそれぞれの資料の型を示している。

自作資料の開発

第2学年 組 道徳学習指導案			
平成16年5月25日(火)第 校時 2 - ( )教室 指導者			
主 題		自然愛護 項目 3 - (1)	
資 料			
薪森原のほたる館			
学 習 活 動	主 な 発 問 と 予 想 さ れ る 反 応	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点	
1 <導 入> ・ビデオを見る。	・薪森原のほたる館やゲンジボタルのビデオを用意する。	・ほたる以外で身近な自然があるかを聞く。	
2 <展 開> (1)資料を読む。 (2)読後、初発の感想を聞く。	教師の範読を聞きながら、自分の郷土の自然を思い浮かべてみよう。 ・自然ってすばらしいなあ。 ・ゲンジボタルの存在を知らなかった。	・ゲンジボタルについて紹介する。	
3 <結 末> ・自然について考える。	これからどうしようと考えていますか。 ・カワノナがほたるのえさになり、また水を浄化してくれる。 ・きれいな川がほたるを生きさせる。 ほたるが生息する郷土の水をきれいにするために恵たちが努力したことをどう思いますか。 ・美しいほたるが生息できるようになって、本当に良かった。 ・自然を生き返らすことは、私たち人間が生きていくことにつながる。	・カワノナの殻を用意しておく。 ・川の大切さを十分認識させるために、話し合い活動を取り入れる。	
(4)ボランティア活動としての地域の清掃について考える。	私たちは、ボランティア活動として地域の清掃を行っているが自然とどんな関係があるでしょうか。 ・きれいな水を生み、ほたるの生息につながる。 ・みんなが地域を大切にす。 鏡野町の美しい自然は何を恵んでくれるのかノートに書いて発表しよう。 ・きれいな水、おいしい米、ほたる ・心優しい人、人情、おいしい果物	・自分たちも協力することで自然愛護に役立っていることを理解する。	
評価の観点		時間があれば、町内だけでなく、すべての自然について考える。	
生徒が自分の生き方の問題として認識し、意欲を持って学習に参加していたが、生徒の発言から、自然愛護の大切さをどの程度理解できたかを探る。			

図5 「薪森原のほたる館」の指導案

副読本以外にも文部省から出された「読み物資料とその利用」をはじめとして、各種研究団体から出されている資料などもある。しかし、「熱心に考えることのできる資料」「感動して心が揺さぶられる資料」「思わず今までの考え方を振り返る資料」などと、常により望ましい資料を探すことが大切である。生徒作文、新聞記事、テレビ番組、インターネットなどに接する際には、常に心掛けておきたいと考える。特に地域素材を用いた資料の開発は重要である。生徒が最も身近に感じることであろうし、様々な補助資料を入手することもたやすいと考えられる。また、地域での体験活動との関連を図ろうとす

れば、なおのこと地域素材を生かした資料の必要性は高まる。

今回は学区にある「薪森原のほたる館」に取材した新聞記事や、スイスの教育学者であるペスタロッチの言う「知・徳・体の調和的発達」の理念を町づくりのキャッチフレーズとしている鏡野町の取り組みを道徳の時間の資料とした。

#### 重点的指導の工夫

重点目標の達成を目指すためには、当然その重点的な指導が必要となる。まず、中学校学習指導要領に示されている23の内容項目に対して、1単位時間ずつを充てるとする。年間35単位時間であるから、残りの12時間に対して重点項目をどのように分配するかは、各学校の創意工夫によるものであり、特色をつくることにもつながる。

調査した事例の中で、多いのは量的な重点的指導である。重点目標とした内容項目を、各学期に1単位時間ずつ設定する計画や、一つの主題を2単位時間で扱う計画などの例である。いずれにしても単に時間を多くすることに意味があるのではなく、生徒がその内容項目に関しての考えをじっくり深められるようにするための工夫である。

本研究においては、各学期に重点目標を振り分け、各学期に複数時間の配列を行った。例えば、2学期には、4 - (1)「集団生活の向上」を設定し、2単位時間を配列している。このとき、内容的に似たような資料が重ならないように配慮した。

質的な重点的指導の場合には、幾つかの内容項目を関連付けて指導する。ある内容項目を学習したとき、生徒は発展的にその関連内容項目に目が向くようになるであろう。その自然な心の動きを、ある一定期間内において取り上げ、指導計画の中に生かしていくことによって効果的な指導が展開できると考えられる。また、他の教育活動との関連を図り、一層深まりのある指導をねらうことも質的な重点的指導と言える。

年間にわたって量的な重点的指導と質的な重点的指導を組み合わせることもある。また、ある時期に集中して、質的にも量的にも重点的指導を行う総合単元的な道徳学習の指導も考慮したい。

#### (5) 体験活動や学校行事などに関連させる工夫

教育課程審議会答申に示された「体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実施」という改善の方針に基づいて、特に考慮する必要がある。学校行事の

多くも広い意味での体験活動ととらえ、それぞれの体験活動や学校行事などに関連する道徳的価値を再確認していった。例えば、総合的な学習の時間における職場体験活動ならば、関連する内容項目は、1 - (3)「自主自立」、1 - (5)「自己の向上」、2 - (1)「礼儀」、4 - (5)「勤労奉仕」である。これらの主題を職場体験活動の時期に集中的に行うことを計画した。さらに、学級活動などでも進路学習などを計画し、総合単元的な道徳学習として設定している。

今回は設定していないが、人権尊重教育、国際理解教育、環境教育などと組み合わせ、総合単元的な道徳学習を行うことも可能である。それぞれに関連する内容項目を示す。

#### ア 人権尊重教育

・公平公正 ・信頼友情 ・思いやり ・個性伸長  
・尊敬感謝 など

#### イ 国際理解教育

・国際理解 ・信頼友情 ・思いやり など

#### ウ 環境教育

・自然愛 ・生命尊重 ・畏敬の念 ・公德心  
・郷土愛 など

総合単元的な道徳学習の時間は、各教科や総合的な学習の時間などとの関連を図っていくため、担任教師だけでは行いにくい。多くの教師の協力が必要となる。そのための体制づくりを心掛けたい。

#### (6) 指導過程や指導方法などの工夫

「(4) 資料の選定と配列」において述べたように、道徳の時間がマンネリ化していることにより生徒の活発な意見交換がなされにくいという現状がある。これは資料だけの話ではない。指導過程や指導方法についても同様である。例えば、展開の後段においては、資料の登場人物の言動やそれについての友人の意見を受けて、自分の生活を振り返ることが一般的である。そのとき、生徒に対して「今までに、くじけそうになりながらも最後までやり遂げたことはないか。そのときどんな気持ちになったか。」などと尋ねる。この発問は、小学校低学年の指導案にも見られるし、中学校第3学年の指導案にも見られる。つまり、子どもたちは、毎年同じことを尋ねられているかもしれないのである。もちろん、発達段階も資料も異なるが、これはやはりマンネリ化していると言える。

この現状の改善のためには、指導過程や指導方法の工夫も必要である。まず、指導過程の工夫として

は、前述した総合単元的な道徳学習、道徳の時間を複数時間で構成する統合的プログラムの展開などが考えられる。

本研究においては、図4に示した年間指導計画例の展開に沿って、モラルジレンマ資料による討論からオープンエンドで終わる授業実践を行った。これまでの道徳の時間にはあまりなかった、討論的な話し合い活動を行うことによって、生徒たちはいつもより積極的に道徳的価値について意見や考えを交流させることができていた。授業後には、今後もモラルジレンマの授業などの普段とは違う道徳の時間を期待する生徒の声が聞かれた。

また、導入や終末における、小さな工夫も行う必要があるだろう。特に、毎時間似たような導入を行うと、生徒にとって、その道徳の時間に対する興味がわきにくいものになりがちであるので、導入には一工夫を要すると考えられる。本研究においては、生命尊重をねらいとした授業の際に、超未熟児の人形を自作し、導入に用いたことで資料への関心を高めることができた。

指導方法としては、構成的グループエンカウンター、役割演技、校長や他の先生とのチームティーチング、家庭・地域の人々の参加などが考えられる。これらの様々な工夫については、すぐに行えるものばかりではない。むしろ教師が研修を重ね、その指導について十分に理解しておかないと、逆効果になる場合もあるだろう。各教科と同じようにとはいかないかもしれないが、道徳教育の研修もぜひ重ねていく必要があると考えている。

また、心のノートの活用も計画的に行うことが効果的であると考えられるので、年間指導計画にその活用例を示している。ただし、心のノートは学校生活のすべての場面において、活用を図ることがあることと、ねらいとする内容項目によっては、道徳の時間には扱いにくいものもあるので、すべての時間に活用例を示してはいない。

#### 引用文献

- 1) 文部省：道徳教育推進指導資料「中学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」, p.16, 2003

#### 参考文献

- ・ 国立教育研究所：道徳教育カリキュラムの改善に関する調査研究 - 小学校・中学校調査報告書 - , 1997
- ・ 文部科学省：中学校学習指導要領解説 - 道徳編 - , 1998
- ・ 山陽新聞社：山陽新聞 8月9日朝刊, 2003
- ・ 暁教育図書：中学生の道徳2 自分を考える, 2003

#### (7) 家庭・地域の人々との連携

「家庭や地域の人々の協力による道徳教育の充実」も教育課程審議会答申に示された改善の方針の一つである。家庭・地域の人々の道徳教育への参加・協力を図り、意義あるものとするためには、やはり年間指導計画に示しておく必要がある。家庭・地域の人々が学校行事や体験活動への協力者として、また道徳の時間へのゲストティーチャーなどとして参加する場合が考えられる。どちらにしても、事前に打ち合わせが必要になるが、ゲストティーチャーとして参加・協力を得る場合には特に入念な打ち合わせが必要である。いつ、何をねらいとした道徳の時間の中で、どのような立場から、何について、どれくらいの時間で、どのように話すのかなどを明確に伝え、理解を得なければならない。また、人権に関することにも留意が必要となる。これらについての相互理解がないと、道徳の時間のねらいが達成されにくくなりかねない上に、家庭・地域の人々に不快感や不信感を持たれることにつながるおそれがある。

#### 成果と課題

全体計画案と年間指導計画案の作成を通して、その課題について、改善の基本的な考え方を明らかにした上で、それぞれの改善案を示すことができた。その作成を通して、心豊かな生徒を育てていくには、担任教師や学校の創意工夫も必要ではあるが、家庭や地域の人々とともに道徳教育を進めていくことが更に重要であることがわかった。

次に課題としては、まず、年間を通しての計画モデルの授業実践である。その実践を評価し、改善を積み重ねることにより、心豊かな生徒の育成を一層目指したい。そして、心に響く資料の開発である。本校の地域にも、道徳の時間のよい資料となる素材がまだまだ発見されていない宝物のまま眠っていることであろう。それを発掘していくことで年間指導計画の改善に役立てたい。